

氏名：飯山 香

実施国：セネガル

協力活動

活動名称

女性グループ JigeenNuFarlu「仕事にやる気溢れる女性たち」による思春期女性インフォーマル教育プロジェクト

(1) 計画通りに実施されましたか？運営面・経理面での変更点はありましたか？

運営面、経理面ともに大きな変更なく実施できた。縫製技術を若い女性に教えたいという要請に基づき、ミシンを購入し、現地に届けた。ただ、現地でのニーズ調査を考慮すると、受講する女性の年齢が15歳から38歳となり、プロジェクト名の「思春期女性」に該当しない対象者も含まれた。ミシンの台数は、作業場所の広さを考慮し5台とした。研修生が利用する裁縫道具類は、友人・知人から寄付を募り、日本から現地に運ぶことで、係る経費を節約した。運営・会計上の規則については、受講期間を6ヶ月間とし、1ヶ月ごとに習得する内容を受講登録票上で分かるようにした。また登録料を2,000 CFA、受講料を毎月1,000 CFAとすることとし、受講登録票で支払状況が一目で分かるように工夫した。(※別紙受講登録票参照) 設備事情から、今回は6ヶ月間で7名の受け入れとした。

(2) 実施の結果（良かった点、反省点を含めて）

2年間の青年海外協力隊の経験で積み上げた信頼関係のもとで実施した活動であったので、短期間のうちにスムーズに計画を進めることができた。また実際に現地を訪れてミシンの設置や運営方法の打合せをすることで、女性たちのモチベーションを高く維持することができた。

良かった点は、事前に現地の女性たちや現地の青年海外協力隊隊員と連絡調整をしながら事業の下準備を進めていたことで、滞在6日間で効率よくミシン購入や配送を進められた。事前準備が整っていたので、焦らず、押し付けず、女性たちのペースに合わせて、活動を進められた。(現地隊員は医療隊員であり、本来の活動の合間に協力してくれた。)

反省点は、滞在期間の設定が短かったことである。数回の受講期間をフォローできれば、更に順調に事業が進んだと思われる。今後も電話や現地の青年海外協力隊隊員と連絡を取り、調整をしていきたい。

今後も Jigeen Nu Farlu の製品を日本でも販売していくことで、事業として自立的にグループを運営している女性たちをサポートしたい。新しく学びに来た女性たちも、学んだ技術が収入に結びつく喜びが持てるよう継続的にインフォーマル教育プロジェクトを支援していきたい。



運営会議の様子



初めてミシンのペダルを踏んで喜ぶ研修生

(3) 異国の参加者同士または本人が相互理解を深めたと確信できた場面は？
または実施事業に対する一般の反響は？「協力活動」「調査研究」

信頼関係を国際協力の基礎として活動を進めることの有用性を感じた。それは二年間を現地で過ごした帰国隊員だからこそできる国際協力の形であると考えられる。滞在期間が短期間にもかかわらず、女性たちと効率的な活動ができたことは、信頼関係ゆえである。大きな国際協力という流れの中で民と民でつながり、お互いに友として協力活動を進められる素晴らしさを感じた。女性グループのリーダーは、協力活動を終えた外国人は、帰国後さっぱりとセネガルのことを忘れてしまうものだが、帰国後も日本と繋がっていられることに感謝している、と話してくれた。また、自分たちで活動を始めてからの生活は、自分の生活諸費用を人に金の無心をせずに暮らせている、嬉しく思う、とも話してくれた。

また、研修生用の裁縫道具を寄付してくれた知人たちには、女性たちから感謝の手紙と写真が送られ、民と民をつなぐ相互理解が、協力隊隊員とは別の輪として広がったように感じている。

2月11日（金）、12日（土）にJICA横浜で行なわれる“横浜国際協力フォーラム2011”で神奈川県青年海外協力隊OB会から今回の活動内容について発表を予定している。

(4) 社会への効果（実施事業がどのように社会に活かせるか、活かしたか）

セネガルの地域社会において（ケベメール市）

・就業を希望する若い女性たちに、研修と収入の場を提供し、女性たちの活動が次世代に引き継がれる機会を作ることができた。

・活動を通して、女性たち自身が識字の必要性についての意識を高めることができた。

日本社会について

・セネガル支援任意団体バオバブの会（横浜市）を通して、女性たちの作品が販売され、その利益がセネガルの子どものための教育支援に生かされた。

・バオバブの会の活動を通して、多くの日本人にセネガルの人々や社会について知ってもらう機会が得られた。また女性たちやバオバブの会の活動をきっかけに日本人同士のつながりが深まった。

・事業実施についての報告会を2011年2月（横浜国際協力フォーラム2011）と2011年7月（青年海外協力隊神奈川県OB会総会）にて行い、国際協力に興味をもつ人々の輪を広げることができた。